

◎日 時	平成25年11月20日（水）午後2時07分～午後2時55分
◎場 所	北見市役所 北2条仮庁舎 3F 庁議室
◎出席者	会議委員：塚本会長、高橋副会長、山村委員、佐藤（忠）委員、平子委員、 佐藤（浩）委員、広川委員、山内委員、多田委員、江田委員、戸田委員、 鈴木委員、遠藤委員、西田委員、香川委員、小原委員、阿部委員、 皆川委員、志賀委員 北海道開発技術センター：芝崎氏 事務局：橋本地域振興課長、奥原地域交通担当係長、横山主任

## 開 会

橋本課長： 大変長らくお待たせいたしました。本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまより、平成25年度第4回北見市地域公共交通会議を開催させていただきます。開催にあたりまして、塚本会長からご挨拶をいただきたいと思いません。

塚本会長： 調整会議が少し延びまして、遅れましたことをまずお詫び申し上げます。今日は第4回北見市地域公共交通会議ということで、これまで皆様方からいろいろなご意見をいただきまして、わかかバスの本格運行がスタートいたしました。利用状況が今日この後報告される予定ですが、それなりの成績を挙げているとのこと。そして、地域の住民にもご利用いただいているようで、交通会議の中でご議論いただきましたことが、市民の足としてスタートを切っているということで、本当に嬉しい限りです。心からお礼を申し上げたいと思います。

いずれにいたしましても、これから公共交通というものは、高齢社会という中であって、一つ一つ丁寧に対応していかなければならない状況にあります。これまでの車社会から、お年寄りたちが安全に安心して利用していただける輸送体系というのが、今まさに求められているところでございます。街の形態がスクロールして郊外に行ったものが、また中心街に戻ってきてコンパクトにしていくという考え方もあります。そういう兼ね合いの中で公共交通体系というものを十分に検討していきたいと思っておりますので、どうぞこれからも皆様方のお知恵をいただけますよう、心からお願い申し上げます。今日の報告事項として、今申し上げましたコミュニティバスの運行結果、そして、また、夕陽ヶ丘線の新たな利用促進策があります。また、新たな協議事項としたしまして、公共交通利用促進について、ということで、ニュースレターの発行などを皆様とご協議させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。冒頭、遅れましたことをお詫び申し上げまして、北見市地域公共交通会議の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

橋本課長： ありがとうございます。それではこれからは塚本会長に進行をお願いいたします。

塚本会長： まず、会議成立宣言について、事務局から報告をお願いします。

橋本課長： 皆様ご苦労様です。本日の出席委員数は、21名中、18名であります。北見市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席がありますので、本日の会議が成立いたしますことをご報告申し上げます。なお、端野まちづくり協議会の日置委員、

北見警察署の元嶋委員については欠席、北見市企画財政部長の小原委員については遅参する旨ご連絡を受けていますことをご報告申し上げます。

#### 報告事項（１）川東・若松地域コミュニティバスの運行結果について

塚本会長：それでは、レジュメにしたがいまして議事を進めてまいります。まず、報告事項（１）川東・若松地域コミュニティバスについて報告させていただきます。事務局から説明をお願いします。

芝崎氏：北海道開発技術センターの芝崎です。私から、川東・若松地域コミュニティバスの運行結果についてご報告をさせていただきます。皆様のお手元に、事前にお送りした資料とは別に川東・若松地域コミュニティバス運行結果という資料をお配りさせていただいております。これについては、中のデータや詳細な分析を行わせていただいた結果、差し替えという形となりまして大変恐縮ですが、これにもとづいてご説明をさせていただきます。

本格運行までの経緯につきましては、随時この会議でご報告させていただいておりますが、10月1日から、わかバスという愛称で本格運行がはじまりました。2ページ目に運行概要が載っておりますが、こちらもこれまでと違いはございません。昨年の12月10日から3月31日までを実証運行、本年4月1日から9月30日までを継続運行という形で運行を行いました。今回は実証運行・継続運行についてのご報告をさせていただきます。なお、料金や運賃、車両については以前ご報告させていただいた内容と変更ございません。

3ページ目、4ページ目は、実証運行と継続運行の路線図、時刻表を付けさせていただきました。継続運行につきましては、新たなエリアが追加になったりしておりますが、こちらのほうは以前ご報告させていただきましたので、割愛させていただきます。具体的な結果からご説明させていただきます。

5ページ目です。平成24年12月10日から平成25年3月31日までの111日間で、739人が乗車し、963便が運行いたしまして、1便あたりの乗車密度が3.88となっております。継続運行については、4月1日から9月30日までの183日間で、乗車人数は5,132人となっております。運行便数は1,589便で、1便あたりの乗車密度が3.23となっております。合計で294日間運行いたしまして、8,871人の方にご利用いただきまして、運行便数が2,252便、全体としては乗車密度3.48人ということでした。下のグラフの左側は、旧若松線と比較したグラフでございます。平成23年10月1日から平成24年9月30日の運行では、365日間で7,486人の方がご利用いただきまして、乗車密度が2.36ということでしたが、今回の実証運行では294日間で8,871人の方がご利用いただきまして、乗車密度が3.48と概ね1以上増えたところです。右側は実証運行と継続運行の比較をさせていただいたグラフです。実証運行は冬場で、継続運行は夏場であったことから、乗車密度が3.88から3.23に減少したところです。例えば夕陽ヶ丘線で同様の比較をした場合、冬場は30人くらい、夏場は20人くらいの乗車密度ですので、概ね20から30パーセントくらい利用人数が減るのですが、こちらの便については17パーセントくらいの減少ということで、夏季においても比較的使用される方が多かった、ということだと思えます。

6ページ目には、グラフを3つほど付けさせていただきました。左上が月ごとの利用人数

でございます。もっとも乗車人数が多いのが3月で、1,089名でございました。一方、乗車密度は2月がもっとも多く4.34という結果でございます。最も乗車密度と利用人数が少ないのが8月で、798名の2.96という乗車密度でした。こちらは、お盆などにより利用が少なかったと思います。右側のグラフは便ごとの利用人数で、もっとも多いのは1便の2,310人でした。次に多いのは4便ということで、1便で北見バスターミナルに向かい、4便で帰る、という利用が多いと思われます、もっとも少ないのが2便で297人、1.01という乗車密度でした。曜日ごとのグラフが一番下に載っております。最も多いのが金曜日で1,603人で乗車密度は4.25となっております。少ないのは日曜日で、休日は少ないという状況でした。

7ページ目ですが、実証運行と本格運行における便ごとの比較でございます。左側が便ごとに加工したものでして、1便あたりの乗車密度が継続運行では少なくなっています。中でも、7便が実証運行中が2.00だったにも関わらず、継続運行では0.72になりました。これは、スキー場からの帰りの便として利用されている方が多かったということで、これは夏季にはいらっしやらなかったので利用率が減りました。また、0便と5便については冬より夏の利用が多かったということですが、こちらは時刻の見直しなどが影響したと考えられます。右側は曜日ごとの比較でして、最も多いのが冬場の金曜日で4.90となっております。夏場においては曜日ごとの大きな差は無くなってしまして、木曜日については冬場に迫るような状況です。

8ページは、実証運行と継続運行における運賃の支払状況でございます。青色が高齢者等無料バス乗車証で、赤色の大部分は現金となっております。実証運行と継続運行、どちらも70パーセント以上が高齢者等無料バス乗車証の利用でございまして、継続運行のほうが若干高齢者等無料バス乗車証の割合が高くなっています。

9ページに、便ごとに分けたものをご用意させていただきました。0便では、現金での支払いが297人ということで、40パーセント近くになっています。0便は定期での利用が104人いました。8便についても、現金が238人で、半数以上の方が現金で支払っています。全体としては高齢者等無料バス乗車証の利用が多かったという結果が出ました。

10ページ目ですが、こちらはバス停ごとの利用人数でございます。左側が往路で、川東・若松から北見バスターミナルに向かう便におけるバス停ごとの乗車人数です。最も多いのが北見老人ホームでして、1,336人、1日あたり4.54人の方が利用されるという状況です。ピッチ&パッチきたみ川東については、冬場の利用は158人でございますが、夏場は517人ということで、3倍以上乗車が増えた、という結果がございました。一方、デマンドやさくら子供公園については、冬場より夏場の利用者が減っている、ということで、歩行者用の橋を渡って歩いていかれる方も増えているのだと思われます。右側が復路で、最も多いのが北見老人ホーム、次に多いのがピッチ&パッチきたみ川東となっております。川東3号線においては、乗車する人数が1,137人でしたが、戻ってこられる方が504人ということで、行きはバスを利用しているけど帰りはタクシー、送迎などを利用している、というケースが見受けられました。全体として、往路より復路のほうが利用人数が少ない、ということで、帰りは違った手段で帰っていることがわかります。

11ページ目ですが、こちらはデマンドの利用者の推移でございます。やはり12月から

3月までが多く、若松休養村はほぼスキー場利用の方ですが、こちらの方が利用されています。2月は最も多くて169人で、そのうち82名が若松休養村の利用者でした。スキー場に毎日のように通う方がおられまして、それで利用が増えていました。

12ページ目でございます。こちらは便ごとの運行割合です。デマンドバスは利用者がいない場合は運休いたしますので、運行した割合についてグラフ化させていただきました。往路については1便が最も多くて42パーセント運行しています。次に3便で32パーセント、7便については31パーセントとなっており、3便、7便についてはほぼ同じような数字で30パーセントで運行しています。また、復路の運行割合につきましては、4便が最も多くて47パーセント、次に6便が23パーセント、最も少ないところで8便が6パーセントとなっておりました。夜帰ってこられる方の利用は少なかったところです。13ページ目は実証運行と継続運行に分けたグラフです。実証運行の運行割合で最も多かったのが7便で68パーセントでした。こちらは、スキー場から帰られる方がほぼ7便を利用して帰っていた、という状況でした。継続運行は1便が最も多くて40パーセントで、7便はスキー場の利用客がいなくなって8パーセントまで下がりました。また、復路については、割合としては4便が最も多く、冬場は68パーセント、夏は34パーセントとなっています。冬場においては、4便で若松スキー場に行って、7便で帰ってくるという利用の形態があったようです。継続運行においては、2便と8便の利用人数が少なくなりまして、2便が4パーセント、8便が2パーセントでした。朝早く、夜遅くにデマンドを利用される方が少なかったところです。

急ぎ足ではございましたが、川東、若松地域コミュニティバスの報告につきましては以上でございます。続きまして、事前に資料をお送りしております、わかっバスの運行状況の報告をさせていただきます。10月1日からわかっバスという愛称で本格運行が始まりました。本格運行の時刻表を載せさせていただきましたが、大きく変わったところで、2便と5便が若松休養村から直行で定時定路線へと続く便とさせていただきます。また、3便が今までの便より45分ほど早くなるよう変更を行ったところです。

次のページに進みます。10月1日からの本格運行にあたり、出発式というものを開催いたしました。時間は7時から北見老人ホーム駐車場で行われました。こちらは雨模様でしたが、多くの方に参加していただきました。プログラムとしては、市長のご挨拶であったり、わかっバスの愛称を考えてくれた児童からわかっバスの運転手への花束贈呈、テープカットが行われました。北海道新聞社や経済の伝書鳩の取材も入りまして、10月2日にはこの内容が記事になりました。

一番最後のページに、本格運行後の乗車状況というものを1か月分整理させていただきました。10月1日火曜日から、10月31日までということで、運行便数は270便で、乗車人数は1,039人、乗車密度は3.84ということで、昨年の冬に近い形で利用者が増えているという状況です。これから冬になっていきますので、利用の人数も増えていくのではないかと、いうところです。簡単ではございますが、川東・若松地域コミュニティバス、わかっバスの運行報告をさせていただきました。

塚本会長 : ありがとうございます。ただ今川東・若松地域コミュニティバスの運行報告ということで、実証運行、継続運行、本格運行の結果についてご報告いただきました。何かご質問等は

ございますか。無ければ、後で改めてお伺いしたいと思います。それでは次の議題に進みます。

#### 報告事項(2) 公共交通利用促進について 夕陽ヶ丘線の特定MMについて

塚本会長 : 2つ目の議題といたしまして、公共交通の利用促進について、ということで、夕陽ヶ丘線の特定MMについてご説明いただきたいと思います。

奥原係長 : 本年度は、夕陽ヶ丘線におきまして、特定路線の利用促進を実施するというところで、前回の第3回の交通会議でご承認をいただいたところでありまして。これまで利用促進に使用する、動機付け冊子、夕陽ヶ丘線のお買い物バスマップ、アンケート等につきましては、交通会議の幹事会の皆さんにご検討をいただいたところでありまして、内容等がまとまりましたので、資料と合せて具体的な調査地域等も含めてDECの芝崎さんから説明をさせていただきます。

芝崎氏 : 資料2について説明させていただきます。最初に、北見地域における特定路線利用促進策配布エリアについてです。1番の調査方法については、前回の公共交通会議でご説明させていただきましたが、2種類実施いたします。1つが、居住世帯を対象とした利用促進、もう1つが、施設利用者を対象とした利用促進策の2種類を実施する予定でございます。利用促進策の居住世帯を対象としたものは1, 200世帯を予定しております。施設利用者につきましては300票を予定しております。これは配布数ではなく、回収数を300に近づけるように配布したいと思います。

2ページ目でございます。こちらは居住世帯を対象としたMMを実施するエリアの検討でございます。1日ごとのバス停ごとに利用人数を整理したグラフですが、この利用人数が1日あたり5から10人以下というところを抽出いたしました。また、市街地やイオン北見店から一定程度離れているバス停、三輪地区の巡回部分以外のエリアをとということで、赤い枠で示されているバス停の周辺地域にMMを実施する予定です。地図上に落とし込んだものが次のページです。現在、夕陽ヶ丘線の三楽町、青葉通、児童相談所、学園団地、聖徳寺、日赤看護大学、修覚寺などの周辺に、今回のお買い物バスマップやアンケートを配布する予定です。右下のほうに表で各町名と世帯数を整理させていただいています。地図上では1, 475世帯となっておりますが、これらの世帯に配布させていただきたいと思っております。また、施設利用者については、イオン北見店での実施を予定しています。

では、実際どのようなツールをお配りして利用促進を図るか、ということで、一つは夕陽ヶ丘線お買い物バスマップでございます。こちらは今回お買物をターゲットにバスマップを作成いたしました。表側には主要な買物施設を落としまして、写真を掲載しています。三輪方面については、施設が集積しているということもございまして、写真の掲載はしていません。裏には、施設の詳細情報、夕陽ヶ丘線の時刻表を掲載しています。こちらの時刻表は冬ダイヤを掲載しております。具体的な移動方法イメージしていただくために、ある看護大生の休日、というような形で、利用方法を掲載しております。こちらはA3の両面カラーです。

続きまして、クルマの使いすぎについて、少しだけ考えてみませんか、という資料についてご説明いたします。こちらはA5の二つ折、8ページの冊子です。こちらは、明日の公共

交通の利用を少し考えていただくために、それに関係するようなデータをわかりやすくお示ししたものです。内容は、健康に関すること、お金や費用に関すること、環境に関すること、例えばCO2の排出に関するようなことです。事故に関することについては、実際の事故の割合などを示しています。一番最後には地域のふれあいについてということで、実際に公共交通を利用することで地域の方たちとふれあうことの重要性などを示しており、全体で現状の公共交通の課題をわかりやすく示し、バスなどの利用を改めて考えていただくことを目的としています。こちらのお買い物バスマップと冊子、今年の3月に発行いたしました北見市交通マップをセットでお配りいたしまして、最後にアンケートを添付する形になります。A3両面を、二つ折りにしたもので、調査の概要や、性別、年齢、住所などを最初に書いていただくような形になります。Q&Aに関しては、現状のバスやタクシー、車の利用状況を把握するものです。また、夕陽ヶ丘線の利用状況についてもお聞きしています。下に大きな枠がございますが、これは、具体的にバスのどのような利用ができますか、ということで、夕陽ヶ丘線の利用を改めて考えていただくような、具体的なプランを考えていただきます。このプランをいつ頃できますか、という設問を設けました。最後のページは交通に関する意識についてお聞きしています。今回お配りしたアンケートについては、後に効果検証を測るために、路線バスの利用に関する事後調査にご協力いただく方は、住所等をお教えてください、ということで、効果検証を測れる方法をとっていきたいと思います。

こちらは、全てをセットにして、返信用封筒を同封し、ポストのほうに入れていきたいと思えます。説明は以上です。

塚本会長 : ありがとうございます。これらはいつ頃の実施を予定していますか。

芝崎氏 : 今予定しているのは12月上旬から中旬までに配布を終わらせたいと考えています。

塚本会長 : いかがでしょうか、このようなことを実施していく予定ですが、何かご意見はございますか。

多田委員 : 感想ですが、この動機付け冊子、クルマの使いすぎについて少しだけ考えてみませんか、というものですが、これは思わず最後まで読んでしまいました。なかなか良いと思えます。特に、クルマと「事故」、クルマと「環境」というのがありますが、これは本当かな、という意外な面が認識させられました。

塚本会長 : ありがとうございます。今、報告事項が二つ目まで終わりました。また改めて質問等あれば言っていただきたいと思います。続きまして、協議事項に入らせていただきたいと思います。

#### 協議事項(1) 公共交通利用促進について ニュースレターの発行について

塚本会長 : 公共交通利用促進について、ニュースレターの発行について説明をお願いします。

奥原係長 : 公共交通の活性化を図るためには、地域住民に身近な話題の情報を継続的に届けること、あるいは自分の問題、自分が住む地域の問題として認識していただくことが重要であります。そこで、本年度につきましては、夕陽ヶ丘線の特定MMの他に、公共交通の利用促進として、ニュースレターの発行を、今回を含めて2回予定しているところであります。これまで取り組んできた事業、及び、今後実施する予定の事業などの検討過程や、また、どのような交通体系を目指すのかなどの情報を整理し、定期的に発行するものでございます。

本日は、資料3ということで配布させていただいておりますので、ご覧いただきたいと思  
います。名称につきましては、事務局案ということで「きたみ交通便り」にさせていただきました  
ましたが、委員の皆様でご検討いただければと思います。内容についてであります、表面  
には、北見における公共交通の現状、北見市交通マップの作成、夕陽ヶ丘線の利用促進策の  
取り組み内容について記載しており、高橋先生にもご了解をいただきまして、それぞれポイ  
ントということでコメントを入れさせていただいております。裏面には、10月から本格運  
行を開始した、川東・若松地域コミュニティバスの内容について掲載しており、こちらも高  
橋先生のコメントを入れさせていただいたところでございます。今回は、初回ということで  
これまでの取り組みなどを中心とした内容で作成したところでありますが、今後、内容等  
につきましても十分検討しながら作成してまいりたいと考えているところです。ニューズレタ  
ーにつきましては、本日、交通会議で承認をいただいた後、広報に折込ということで全戸に  
配布をしたいと考えているところです。

塚本会長 : ただいま、ニューズレターを広報に折り込む、ということでしたが、高橋先生の似顔絵も  
良く似ていると思えました。何か高橋先生のほうからございますか。

高橋副会長 : 特には無いです。

塚本会長 : 皆様いかがでしょう、名称については「北見交通だより」と表に書いてありますが、この  
名称を皆様でご協議いただいて、何か良いネーミングがあればお伺いをしたいと思えますが。

戸田委員 : これは年1回の発行でしたか。

奥原係長 : 年2回です。

戸田委員 : できれば、こういったものの中に、今日のような交通会議で諮問されたものを内容に入れ  
て発行したほうがよろしいのではないのでしょうか。交通会議の役割がどのようなものなのか  
わからないので、便りと一緒にそれを付けて広報したらよろしいかと思えます。

塚本会長 : ありがとうございます。広報は何月ごろになる予定ですか。

奥原係長 : 一番早いところで来月号を予定していますが、印刷の関係などがございますので、もしか  
したらその後の号になるかもしれません。

塚本会長 : 12月末配布のものか、間に合わなければ1月末配布のものになる、ということですね。  
そして、3月までにもう1回出す、ということですね。

それと、戸田委員からお話のございました、協議経過等も広報に載せるというお話は、紙  
面等ございますか。

奥原係長 : これまでの取組などを中心に掲載しておりますが、今後、内容については、北見の公共交  
通を利用しやすい環境にするために、戸田委員からいただいたご意見を含めて検討してまい  
りたいと思えます。

塚本会長 : このネーミングについては、皆様いかがでしょう。案がなければ、事務局にお任せしてよ  
ろしいですか。(はい)では、このような内容で、広報に入れて全戸配布し、市民に広くPR  
していく、ということで、これを行ってよろしいですか。(はい)ありがとうございます。で  
は、早速これを広報に折り込むようにしていきたいと思えます。

#### その他

塚本会長 : 本日の協議事項にきましてはこれで終了いたしました。その他になにかご意見とうござい

ましたら、承ります。

佐藤(浩)委員：今日の議題に関わりはございませんが、夕陽ヶ丘線について要望として2点述べさせていただきます。

まず、除雪体制についてです。道路について申し上げれば、夕陽ヶ丘通りの除雪はされていますが、国道と比較して、非常に凹凸が多く、徐行しなければならない箇所が数多くある状況です。また、停留所については、乗り降りを考えて2か所開けるのが望ましいわけですが、経費や除雪した雪の処理などの関係で1か所しか開いていない、というところが数多くありました。そのために、歩道から離して停めなければならず、タイヤが通って滑るところを乗り降りしなければならない、という実態がございます。したがって、経費等の問題もありますが、高齢者の利用が多い、ということを考えますと、安全に利用できる状況づくりも必要であると考えています。少しでも多くの停留所が2か所開けるような状況づくりを、道路管理者をはじめ、自治体、事業者、除雪委託者が連携を図り、事前協議を行いながらこの問題解決に向けて更なる議論をお願いしたいと思っています。

最後になりますが、道立病院が現在の北見赤十字病院跡地に移転されることが決定していますが、そうなりますと、今まで以上に患者や見舞いに訪れる人の数が増えることが予想されます。今夕陽ヶ丘線が運行している経路だけでは、利便としてどうなのか、ということもありますし、北見赤十字病だけでなく道立病院の玄関口に一番近い場所、あるいは利用しやすい場所にバスベイが必要ではないかと考えています。現在工事中の北見赤十字病院新築予定地、そして、現在の北見赤十字病院との間に、バスやタクシーが入ることが最善かと思いますが、いずれにしても利用する方の立場に立って、バスの運行経路やバスベイの位置、タクシーの乗り入れ等について、今の段階から検討いただければと思います。発言させていただきました。よろしくお願いいたします。

塚本会長：ありがとうございました。その2か所開けるということは、2台分のバスが停まれる、ということですか。

佐藤(浩)委員：いえ、バスのドアが前と後ろで二つありますので、それぞれで開いているとスムーズに昇降できる、ということです。ただ、夕陽ヶ丘線も大型車両が前提となっており、これが中型や小型車両となるとまた変わってきますが、やはり1か所だけというのは本当に不便で、特にバスベイを切られていないところでは、普通に走っている車線からさらに内側に停めなければいけないという状況になりますので、非常に苦労している状況です。

塚本会長：阿部都市建設部長が委員としておりますので、何かコメントがございましたらお願いいたします。

阿部委員：今夕陽ヶ丘線についてのお話でしたが、特に去年、一昨年などは雪が多い状況であったため先程のお話のような状況になりました。今後努力をして解決していきたいと思えます。停留所の除雪については、1回道路の除雪をした後に、さらにその雪をどける、という2回目の作業になりますので、なかなか難しいところもございますが、検討していきたいと思えます。

塚本会長：路線の変更につきましては、道立病院ができることで、北見赤十字病院と道立病院の間に道路が1本できますが、そこにバスが通れるかどうかはまだわかりません。今の北見赤十字の関係について、四条通り側のバスベイは、入口に合わせて変えることで進めています。



が、道立病院の入口に近いほうとなりますと、そこにはバスが走っていないこととなりますので、路線のあり方自体を見直さなければなりません、どうなのでしょう。そのような利用客が多くなったときには検討しなければならないかもしれません。

山村委員 : そうですね。

塚本会長 : いずれにしましても、これは課題と受け止めさせていただきまして、今後、利用客が多くなったときに検討させていただく、ということでしょうか。(はい) ありがとうございます。

そのほか、何かございますか。無ければ、次回の開催日程についてお話をさせていただきたいと思います。事務局よりお願いいたします。

橋本課長 : すべての協議事項に対しましてご承認いただきましてありがとうございます。今後行われます、夕陽ヶ丘線のアシケート等につきまして、ぜひPRしていただいて、交通関係者の身内から実践していただければ非常にありがたいと思います。次回、第5回目の交通会議であります、来年の1月下旬から2月上旬の開催を予定しております。ご案内につきましては、改めて送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

塚本会長 : よろしいですか。それでは以上をもちまして、平成25年度第4回北見市地域公共交通会議を終了いたします。委員の皆様におかれましては、長時間にわたりいろいろご意見をいただき、まことにありがとうございました。私たちも、地域に積極的に働きかけていきたいと思っております。これまで幹事会ということで、高橋副会長にはいろいろご協力いただきまして、お礼を申し上げたいと思っております。本日は皆さま、ありがとうございました。(14:55)